

## ヒンドゥー教の原理主義者たちが、キリスト教徒を攻撃

インドの教会、抗議のため、全国で2万5千の学校や施設を閉鎖。

今年の8月の後半はインドのオリッサ州のカトリック教会にとっては血なまぐさいものとなった。ヒンドゥー教の原理主義者たちの暴力によって、少なくとも12人の信者が命を失い、約1万人が避難所か森の中に逃げ込んでいる。教会や福祉施設、修道院や孤児院が襲われ焼かれた。カトリック教会は、一日だけ2万5千の学校や施設を閉鎖し、この暴力的迫害を世間に広く訴えようとした。このような行為は、前代未聞である。聖座は公式声明で、教皇は一般謁見の終わりにこの事件に触れ、オリッサ州でのキリスト教徒迫害を終わらせるように訴えた。

この暴力は、8月23日のスワミ・ラクシュマナダ氏、ヒンドゥー教の原理主義者の組織 Vishwa Hindu Parishad (世界ヒンドゥー協会) のリーダーが暗殺されたことに端を発する。この組織の者たちは暗殺をキリスト教徒のせいにした。カトリックの司教たちは、部族たちによって支配された地域で起こったサラスワティとその5人の追従者たちの暗殺を公式声明で非難した。しかし、Vishwa はデモを呼びかけ、狂信者たちのグループがその中で「キリスト教徒を殺せ、その建物をぶつつぶせ」との叫び声を上げるようけしかけた。

オリッサ州は人口3600万、その94%がヒンドゥー教徒、キリスト教徒はわずか2%に過ぎない。最下層のカーストに属する多くのヒンドゥー教徒が他の宗教に改宗しており、その中にキリスト教徒になる者も多い。これらの部族は厳しいカースト制度によって縛られており、しばしば都市の住民による搾取の対象となっている。しかし、ヒンドゥー教の原理主義者たちは、彼らの改宗に反対し、改宗は強制されているとか、物質的な援助に釣られて行われているとか批判する。

カトリックの司教たちは、この「改宗勧告」の批判を根拠のないものとし、上流のカーストから軽蔑された部族民たちのためにもう長年働いてきている事実を主張する。ヒンドゥーの原理主義の圧力によって、インドの6つの州が改宗を禁じる法律を制定した ([ACEPRENSA](#), 17-01-07)

オリッサ州では、ヒンドゥー国粋主義が格別な力を持っており、特に民族奉仕団〔Rashtriya Swayamsevak Sangh : RSS〕による後押しがある。このグループは、現在のインド政府に反対の立場を取る政党、Bharatiya Janata 党と政治的に結びついている多くの狂信的グループに影響を与えている。

『アジア・ニュース』がこれらの暴力について知らせるニュースは、ヒンドゥーの狂信者たちの残酷さを如実に示す。例えば、信徒の宣教師女性は自分が経営する孤児院の放火で焼死体となって見付かり、そこで働いていた司祭は重傷を負った。3人のキリスト教徒が自宅を燃やされ窒息死した。Bubaneswar 社会センターのシスターは、狂信者たちから暴行を受けたあとで、建物を全部焼かれた。カルクータのマザーテレサの会のシスターたちは、ヒンドゥーの戦士たちから投石された。多くの司祭、修道女たちが非難を余儀なくされた、などなど。

カトリックの司教たちの調べでは、少なくとも12人の死者、2人の重傷者、41の教会(カトリックとプロテスタントを合わせて)が計り去れ、何百の信者の家が害を受け、4つの修道院、5つの若者

のための宿泊施設、6つの社会施設が荒らされた。警察は Kandhamal 地区で外出禁止令を出し、暴力行為を止めようとしたが、キリスト教徒に対する暴行は続いている。

カトリックの施設を閉鎖し、デモを組織するという象徴的な行動によって、インド司教団の会長オスヴァルド・グラシアス枢機卿によると、教会は「インド国民の両親を呼び覚まそう」と望んだ。「抗議行動によって、我々は中央政府の無能によって激しさを増した、オリッサ州のキリスト教徒虐殺を思い起こさせ、他方インドでは反キリスト教感情が増長し、信者の中には拷問を受け殺されている者もいることを訴えようと思った」と枢機卿は説明する。

聖座は26日の記者会見で、被害を受けた教会と修道会との連帯を強調し、これらの行為を「人間の自由と尊厳を犯し、平和な社会生活を困難にする」と非難した。ベネディクト16世も27日の一般謁見の終わりに、「オリッサ州のキリスト教徒に対する暴力行為」のニュースに「深い悲しみ」を覚えると言い、「スワミ・ラクシュマナンダ氏の嘆かわしい暗殺」にも弔意を示した。教皇は、被害にあった信者の側にいると言い、政治当局と宗教団体のリーダーたちに異なる宗教団体の間に調和と平和な共存ができるよう協力して働くよう要請した。

オリッサ州におけるキリスト教徒の迫害は、今に始まったことではなく、過激派ヒンドゥー教徒はすでに一連の暴力行為を犯し続けている。この直前のものは、昨年12月のもので、5人を殺害し、50の教会を放火、400の信者の住居を破壊している（[ACEPRENSA](#), 30-01-08）。

([ACEPRENSA](#), 9-IX-08: 90/08)

（2008年9月7日、9月14日の『カトリック新聞』も参照）